

## 2023年 7月 浜松聖書集会のご案内

( 時間: 午前10時 ~ 正午 )

- 7月 2日 (日) 集会 (クリエート浜松 22号室 )  
司会: 大手 美千代  
聖書講話: マタイによる福音書18章10~14 節  
「一匹の迷い出た羊と九十九匹の羊のたとえ」 永井 徹
- 7月 9日 (日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)  
司会: 岩田 堯  
聖書講話: マルコによる福音書 4章26~29節、35~41節  
「神の王国の一断面 —マルコ福音書のイエスと眠り—」 堀澤 六郎
- 7月23日 (日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)  
司会: 溝口 春江 感話: 武井 めぐみ  
聖書講話: マルコによる福音書 14章32~42節  
「ゲツセマネで祈るイエス」 水戸 潔
- 7月30日 (日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)  
司会: 生江 扶左子  
聖書講話: ヨハネの黙示録 4章  
「世々限りなく生きておられる方」 武井 陽一

### 「終末の徴」と現代

溝口 正

主はアモツの子イザヤを通して命じられた。「腰から粗布 (あらぬの) を取り去り、足から履物を脱いで歩け」、  
彼はその通り裸、はだして歩き回った。 (イザヤ書 20章2節)

これはイザヤに命じられた行動預言であるが、やがてエジプトはアッシリアに粉碎され裸・はだしの奴隷とされる。祖国ユダヤ、エジプトに依り頼むなかれ、ただ神にのみ信頼せよという意味を告げたもので、エルサレム市内を3年間も歩き回ったと記されている、私の心の中ではこれがヒントとなって 憲法九条のゼッケンやプラカードを持って神の御心に従おうとして始まったのである。神に祈って始まった働きは、イザヤのように3年では終わらず、すでに2005年2月で457回目 (日数にして38年と1か月) (⇒2023年6月11日で676回 56年5か月) 続いたが、神からの中止の命令が出るまでは今後も続くであろう。

しかしこのような平和行進、日本の平和も世界も実現しないことは百も承知である。それを承知しながら、地球環境問題や核兵器問題その他の終末の徴 (しるし) を見る時、終末の足音がひたひたと迫りつつあるように聴こえて肅然とするのである。

最終的には世界を支配したもう神が、最後の審判を経て永久平和の神の国を実現してくださることを待ち望みつつ、人々の心に平和の大切さを諄々 (じゅんじゅん) と訴えるのである。

イエスは悲惨な戦争が起きて「まだ世の終わりではない」と言われた。この世の歴史はまだ続く。神が終末を来たらせたもうまで、審判主にして救い主なるキリストを信じ、十字架の赦しを伝え、み言葉に従い隣人を愛し、地上の平和を作り出す働きをも静かに続けることが今日ほど大切な時はないと私は考えている。